

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171700125		
法人名	有限会社エムエス		
事業所名	グループホーム私とゆかいな仲間		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲4129番地1 (電話) 0954-42-1211		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番地2		
訪問調査日	平成 20年1月16日	評価確定日	平成 20年3月4日

## 【情報提供票より】(平成19年12月19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.1人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,450 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	735 円	

### (4) 利用者の概要(12月19日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	うれしのふくだクリニック 福田病院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温泉で有名な嬉野の温泉街から少し離れた住宅地にある。近くには薬局やスーパー等があり、生活する上で地域住民との交流しやすい条件にある。母体の病院を退院される方で認知症がある方が心配との声があり作られたグループホームで1階がクリニック、2階がグループホームとなっている。何かあればすぐに受診でき、リハビリを積極的に取り組める環境でもある。母体の病院の勉強会や外部の研修に参加されたり、一人ひとりの生活歴や意思・嗜好などを職員全員で把握されケアをされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で、①施設、②地域とのかかわり、③入居者と職員が一緒に食事をする点を主な改善課題とされていた。①②はまだ検討中。③は、食事介助が必要な方もおられるので、出来るときは実施されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価項目については職員全員が理解し、改善できる点は改善に向けて努力している。自己評価については管理者、介護支援専門員、介護福祉士で担当し作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>討議内容はその都度議題を設定されているが、利用者のサービス内容や外部評価を受けた内容などが継続的に検討されていないので、運営推進会議が自己評価や外部評価に関する改善経過のモニター役として機能することが期待される。また、入居者が地域の行事等に積極的に参加できるように取り組まれることを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約時に重要事項説明書にてグループホーム内外の苦情相談窓口を掲載されている。意見等があった場合には、苦情処理体制に従って改善されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に挨拶・声かけをされる程度で、地域での行事等への参加はされていない。今後、可能な限り入居者の地域活動への参加を期待したい。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の一部に「地域の方々と交流できるようにいたします。」というグループホーム独自の運営理念を作成し、玄関・食堂に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が基本であり、中身を理解するようミーティング時に、触れるようにし、確認をされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶や声掛けは行われているが、地域の行事等への参加は出来ていない。	○	地域との交流が少なく、今後は、入居者が地域行事への参加や地域の方の受け入れができるように工夫されることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を全職員で理解し、改善すべき点は改善するように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度議題を設定し、参加者と共に話し合い、家族の意見や行政の考え方や日ごろの疑問を尋ねることが出来、有意義な会議となっている。また、前回の外部評価を運営推進会議で検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が中心となってグループホーム間の連携を図っていくような取り組みが進められているが、現在は、運営推進会議以外での行き来は、なされていない。	○	市の担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、共に取り組んでいくことが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月必ず手紙を出し、近況報告を行っている。金銭出納や健康状態を中心に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問された時は、極力お話をして意見を聞くようにしている。また、契約時に施設内外の意見、不満、苦情の受付窓口を伝え、意見等があった場合は苦情処理体制に従って改善されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にし、馴染みのある職員でケアができるように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の病院での勉強会や、外部での研修会にできる限りの出席をうながしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの声掛けで、同じ地域のグループホームへの見学などの交流を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めは短時間過してもらうなど本人が安心して生活していけるように相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にし、個性や力、本人の意向を引き出し、利用者の立場に立ったケアを重点にコミュニケーションをとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも口にされる言葉、声をかけて喜ばれる言葉、すると嫌がられること、何を食べたがっておられるか、何をされたがられるのか、その方について気になる事を日々の生活、会話の中から把握し表にまとめ、年に3回ぐらい更新されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリングをもとに、家族との話し合いなどを行ない、職員の意見を反映して計画を立てるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題が生じた時に、家族、職員と話し合いを持ち、対応できるようにしているが、介護計画の期間が未記入である。	○	介護計画の実施期間を明記し、期間に応じた見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の意見を聴き、受診・リハビリの対応ができるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前から母体の病院をかかりつけ医としている入居者が多いが、希望があれば他の病院にも受診は可能である。体調変化があればすぐに連絡し、診療を受けるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	高齢の入居者がおられ、看取りに関する書類を作成されているが、まだ家族への説明は十分に実施されていない。	○	看取りに関する本人・家族の意思確認を出来るだけ早期に話し合いをされることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報取扱について同意書をとられ、ファイルは事務所にて保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に添えるように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは無理のないように行ってもらい、旬の食材を採り入れ楽しく食事ができるようにしている。食事介助が必要な入居者がおられるが可能な限り一緒に食事を摂るようにされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の方は毎日、午前中入浴されている。希望があれば、午後からでも入浴対応されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の方が食事の準備や片付けを自分の仕事として職員と一緒にされている。また、誕生会の準備を入居者と一緒に行ったり、散歩に出かけたりされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調を良く見て散歩に出たりして、気分転換やストレスの発散に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関には鍵をかけてはなかった。しかし、階段を上り2階の居室空間の入り口には、入居者の転落防止のために鍵をかけてあった。	○	2階の入り口は施錠せずに転倒転落防止の安全策を追求し、入居者の心理的な不安・閉塞感がない自由な暮らしの提供が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入所者の状態の変化により避難の方法は話し合い、隣接する病院職員の協力は依頼している。しかし、地域住民から協力が得られるような日頃の取り組みはなされていない。	○	非常時には地域の人々の協力を得られるような、日頃からの働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の病院の栄養士が献立を作成し栄養のバランスは取れている。飲み込みの悪い方は、刻んだり、つぶしたりして食べやすい状態にしている。又、水分摂取については定時に行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に季節の掲示物や行事の際の写真を掲示している。また、不快な音や臭いもないようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいるような状態にして好みの物を飾ったり、自分らしくいられるような居室にしている。		